

2012 年 1 月 13 日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 谷本 寿男

エルサルバドル国 幹線道路整備事業
(協力準備調査(有償))
最終報告書に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2012 年 1 月 6 日(金) 14:00～16:45
 - ・場所：JICA 本部 (会議室：112 会議室)
 - ・ワーキンググループ委員：石田委員、谷本委員、原嶋委員、松下委員、柳委員
 - ・議題：エルサルバドル国 幹線道路整備事業 協力準備調査に係るドラフトファイナルレポートについての助言案作成
- ・配付資料：
- 1) エルサルバドル国 幹線道路整備事業 ドラフトファイナルレポート
 - 2) スコーピング助言対応表
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010 年 4 月)

全体会合(第 21 回委員会)

- ・日時：2012 年 1 月 13 日(金) 15:30～18:30
- ・場所：JICA 本部(会議室：229 会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

本助言のページや表は、いずれも事前配布資料（ドラフトファイナルレポート）のものである。

代替案比較

1. 最適ルートを選択に当たっては、用いられた比較項目ごとの重み付けとその理由、ならびに、優位性（Advantage）の意味について丁寧な説明を加えること。

スコーピング案

2. 文化財については、相手国の法令に従って、工事着工までに調査を実施すること。
3. スコーピング表における動物への影響については、行動圏、再生産およびバッファゾーンを含めた上で再評価を行うこと。
4. スコーピングで取り上げた影響の予測される項目（大気、騒音、水質等）については、予測の地点、予測の手法、分析の結果および提案すべき措置内容を最終報告書に記述すること。
5. Scoping and results of EIA（表 12.4.1）では、関連する項目すべてについて、想定される洪水の影響などを記述すること。
6. 想定される気候変動に配慮した道路設計とすること。
7. アンダーパスの建設に当たっては、降水時に湛水しない構造にする等の配慮を行うこと。

環境配慮

8. 詳細設計時に計画されている Total suspended solids のサンプリングは、洪水期以外にも行うこと。

社会配慮

9. 用地取得の対象となる土地所有者のすべてが把握されていないという現状にかんがみて、工事着工前までに土地所有者の調査を行い、正式に登録されていない分譲地の地主を含めて、すべての土地所有者への補償の基準とその実施手続きについて明らかにすること。

その他

10. 環境管理計画とモニタリング計画とともに、交通管理計画の役割が重要であることから、特に、未整備車両が走行しないような車検制度の導入を含めた交通管理計画の必要性を提案すること。
11. EIV（Environmental Impact Value：環境影響評価値）を用いて負の影響を評価する方法（P.12 の 31-33）については、5 個の基準の意味、それらの基準を用いることが妥当であると考えられた理由、ならびに、中南米地域におけるこの手法の適用実績についても明記すること。

以 上